

## 令和5年度長野県工業技術総合センター外部評価委員会について

令和5年9月7日に長野県工業技術総合センター外部評価委員会を実施しました。その目的や評価結果等についてお知らせします。

### 1. 外部評価委員会の目的、任務

長野県工業技術総合センター（以下「センター」という。）では、外部から評価を受けることにより、より効率的・効果的に事業を推進できるようにすることを目的として、長野県工業技術総合センター外部評価委員会設置要綱（以下「設置要綱」という。）及び長野県工業技術総合センター外部評価委員会実施要領（以下「実施要領」という。）を定め外部評価委員会を設置しています。本委員会は『センターの使命、使命達成のための各部門の任務、任務達成のための方法・手段・具体的業務、業務実績等を評価する』ことを任務としています。

### 2. 委員

設置要綱第4条に基づいて、次の方々を外部評価委員に委嘱しました。また、委員の互選により、委員長には美濃輪智朗委員、副委員長には堀政則委員が選出されました。

令和5年度 外部評価委員名簿（50音順）

氏名 (敬称略)	所属機関・役職	備考
飯島 洋一	上田プラスチック株式会社 代表取締役社長	
飯村 和生	株式会社はやしや 取締役会長	
小澤 吉則	一般財団法人長野経済研究所 理事・調査部長	
不破 泰	国立大学法人信州大学 理事・副学長	
堀 政則	株式会社協和精工 取締役会長	副委員長
美濃輪 智朗	国立研究開発法人産業技術総合研究所 イノベーション推進本部 副本部長	委員長
山岸 章	株式会社山岸製作所 代表取締役社長	

(令和5年9月7日 開催時)

### 3. 実施方法

『センターの業務内容、実施方法、実績又は期待される成果、推進体制等について、計画、中間、終了の段階で評価する』（実施要領第2）ため、センター全体の事業概要、事業推進方針、業務実績について資料により説明し、評価を受けました。

### 4. 日程

令和5年9月7日（木） 午後1時30分から午後4時30分まで

時 間	内 容
午後1時30分～午後2時15分	センター概要説明 令和4年度業務実績等の説明
午後2時15分～午後2時50分	施設見学（環境・情報技術部門）
午後3時00分～午後4時30分	質疑応答・全体討議

### 5. 評価の概要

いただいたご意見とそれに対するセンターの取り組み・考え方を次項の「令和5年度長野県工業技術総合センター外部評価委員会における意見とセンターの考え方について」に示します。

**令和5年度長野県工業技術総合センター外部評価委員会における  
意見とセンターの考え方について**

**1 強化すべき分野・対象について**

意 見	センターの考え方
<p><b>【DXの推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● DXはD（デジタル化）で終わるものではなく、どのようにX（変革 トランスフォーメーション）するかが大切である。工技センターだけで支援することは、難しいので様々な機関と連携すべきである。</li> <li>● Xの実現には現場をよく知る人が必要で、現場技術者の育成は欠かせない。リカレント教育、リスキリング教育の分野でも協働できないか。</li> <li>● 信大キャンパス内を、スマートシティのテストベッド（実証実験用の通信ネットワークやサーバー群）として開放していく予定なので活用してほしい。</li> </ul>	<p>○DXソリューション提案事業において、実績が豊富な外部専門家の知識を活用するとともに、技術連携部門にDX担当を配置した。Xにウエイトを置き、県産業振興機構（NICE）、信州大学等と連携して、引き続き企業支援を行っていききたい。</p> <p>○今年度は、DXマネジメントのノウハウを伝える「DXスタートアップセミナー」を開催している。現場ニーズを把握した共同研究等を通じて、技術者の育成を進めたい。教育分野では、企業への紹介など協力できるところは協力していききたい。</p> <p>○様々な通信インフラのテストベッドは、DXだけでなくGX/LX推進などの実証試験での活用が見込めるので連携を模索したい。</p>
<p><b>【小規模事業者のレベルアップ（底上げ）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 先端技術の研究開発と並行して、小規模事業者の「稼ぐ力（収益性、付加価値）」を向上させる支援が必要である。</li> <li>● 小規模事業者の基盤技術力の強化、研究開発力を持つ人材育成は引き続き重要である。</li> </ul>	<p>○基本業務（依頼試験、施設利用、技術相談）で対応している。センターの利用に繋がるよう支援事例等を使った情報発信をしていききたい。経営者の持つ危機感を共有し、NICEなどと連携し支援していく。</p> <p>○研究開発力、技術提案力を強化する事業を10年間実施してきた。今年度は、一歩進めた公募型共同研究を展開している。企業と一緒に研究開発をすることで、基盤技術力強化、研究開発人材育成を支援していく。</p>

意見	センターの考え方
<p><b>【食品産業支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 県産食品をどう売り込むかが課題であり、食品の優位性や機能性に関する研究開発の強化をお願いしたい。</li> <li>● センターの設備を使わせてもらうOJTを通じて、品質管理者の育成をサポートしてほしい。</li> </ul>	<p>○食品産業振興ビジョン2.0に基づき、グローバルな視点で社会ニーズに対応した「NAGANOの食」の創出に繋がる研究開発を関連産業や他機関（食品工業会、NICE、大学など）と連携しながら推進していきたい。</p> <p>○食品技術部門には、事業者が半年単位で入居できるイノベーションルームがあり、実際に設備を使い試作やデータを取得することが可能である。また、各技術部門で企業からの研修も受け入れる制度を用意しているので活用してほしい。</p>

## 2 センターの支援機能について

意見	センターの考え方
<p><b>【企業のニーズ調査】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業へのアンケート等で、市場ニーズを把握して、センターの在り方を検討していくべきではないか。</li> </ul>	<p>○2年ごと県内200社を対象にした「工業技術動向調査」を行っているので、センターに期待する支援内容や導入機器等を調査して、センターの在り方の検討の参考にしていきたい。</p>
<p><b>【工技センターの支援成果の可視化】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研究開発などの企業支援が、最終的にどれだけの付加価値をだしているかを「見える化」して、分かりやすい指標化できないか。難しいと思うが検討してほしい。</li> </ul>	<p>○以前、共同研究等の実施した企業に、付加価値額の増加（金額換算）の調査を行った。事業者による判断基準のばらつきが大きく、金額の裏付けも明確でなかった経緯がある。信頼性の高い指標化の手法について、検討を継続したい。</p>
<p><b>【効果的なPR方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● センターに出入りする企業は「縁」（何かのきっかけ）で活用している。「縁」に頼るだけでなく、情報発信を活発にして、「縁」を広げる努力が大切になる。</li> </ul>	<p>○共同研究等の成果はプレスリリースを行い、センター利用のメリットを積極的に情報発信していきたい。</p> <p>○実用化等支援事例の紹介では、支援を受けた企業経営者等のリアルな声を掲載するなど、企業の体験が伝わる工夫を継続していきたい。</p>

意見	センターの考え方
<p><b>【工技センターの予算】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備は補助金でカバーしているが、研究費や設備の維持管理費、研修費は不足しているのではないか。</li> </ul>	<p>○研究費は提案公募研究等の外部資金など活用し、確保に努めている。また設備の保守・校正などの維持管理は予算の効率的・計画的な運用につとめ企業支援に影響の出ないようにしていきたい。</p>
<p><b>【工技センター職員の人材育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 十分な予算を充て工技センターの研究や先端技術の調査、情報収集の環境等を充実させ、職員の能力向上を図る必要がある。</li> </ul>	<p>○国研や大学等へ職員を長期研修に派遣するなど先端研究に触れさせる機会を作っている。引き続き、旅費や負担金などの予算の確保に努めていく。</p> <p>○毎年数名の職員が信州大学の博士課程で就学しており、引き続きセンター職員の研究能力向上につなげていきたい。</p> <p>○産総研には共同研究や研修等で支援をお願いしている。産総研との連携は引き続きお願いしていく。</p> <p>○研究職員にも経営的感覚を身に着けるために、年に数回、経営者を招いた研修会を行っている。引き続き、技術以外の知識習得の機会を作していきたい。</p>
<p><b>【支援機関との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 支援機関同士の連携が大切になっている。工技センターとNICEなどの他の支援機関に連携や関係性についてどういった仕組みなのか分かりやすく示してほしい。</li> </ul>	<p>○支援機関との連携は重要視している。技術を工技センター、経営（マーケティング、サプライチェーン）等をNICEが、知財を発明協会が担っている。これらの各機関が連携して研究開発から事業化までを支援できる体制を維持し、今後も企業支援を推進していく。</p>
<p><b>【技術支援の継続】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギー使用合理化、機械加工、トラブル解析、大学への橋渡し等、多くの技術支援をしている。基礎的技術から、企業のステップアップのための高度な技術まで、引き続き支援をお願いしたい。</li> </ul>	<p>○今後も、企業経営者の期待に応えられるよう、研究職員の資質向上、設備整備等、できる限りの技術支援に努めていく。</p>

